

久留米市文化財保存活用地域計画協議会（令和4年度）会議録（HP用）

1. 日 時：令和5年3月24日（金） 14：00～15：50
2. 場 所：職員会館メルクス 2階会議室
3. 参加委員：委員：赤司、吉田、段上、永松、古賀、立石、矢次、野口
4. 事務局：（久留米市市民文化部文化財保護課）：水島、丸林、小澤、神保、廣木、鹿田、大田、荻野

5. 議 事

1. 開会

2. 挨拶（水島課長）

3. 報告

①令和4年度の事業報告

<事務局からの報告>

資料では、地域計画に記載している3つの方針に基づき、取組内容、実施状況を記載している。個々の取組の報告は割愛させていただく。リーディングプロジェクトである地域計画や筑後川遺産の周知としては、六ツ門図書館展示コーナーでの企画展やまち歩きを開催した。また、月1回程度、今回の筑後川遺産の申請者と申請に向けての協議を行った。

委員）資料の取組1～取組3は、市が従前から取り組む内容か。

事務局）市が地域計画の3つの方針に基づき、取り組む内容である。また、「筑後川遺産による歴史遺産の保存・活用」が地域計画に基づくリーディングプロジェクトの6つの取組である。

委員）学校で地域の歴史を学ぶ出前講座は何回開催したか。

事務局）3回である。コロナの影響で学校での出前講座の開催は少なかった。

委員）筑後川や高良山に関連した出前講座、小中学校での出前講座が少なく、もっと活動すべきではないか。

事務局）各校区の生涯学級などを対象とした出前講座は市の講座の中でも人気で実施回数が多い。六ツ門図書館展示コーナーで毎年開催する「昔のくらし展」は、市内の小学3年生のカリキュラムになっており、令和4年度は27校54クラスの1,600名が見学に訪れた。

委員）今年度の有馬家に関連した取組は梅林寺関連の取組だけか。

事務局）梅林寺の石灯籠の調査などの取組以外でも、有馬家入城400年の行事として、雅楽公演など開催した。

委員）「筑後川遺産による歴史遺産の保存・活用」の取組は、どのように市民に広報していくのか。

事務局）筑後川遺産関連のリーフレットやチラシを作成し、市民への周知を図っていきたい。

委員) 地域計画概要版は、コミュニティセンター(市内46校区)に配付しているのか。
事務局) コミュニティセンターには配付していないが、今後、筑後川遺産についての説明に
回る際に紹介していく。

委員) 現役の大学生に筑後川遺産に関連して何かアイデアを出してもらうことは可能か。

委員) キャンパスがある地元の御井町で地域連携センターを発足し、様々な地域社会の取組
に学生が関与している。こういった場を利用することで、筑後川遺産にも取り組むこと
は可能である。

委員) 地域計画概要版では、まず文化財に対して市民に何をして欲しいのか、市は何を目指
すのかを明記すべきではなかったか。

事務局) 今後、筑後川遺産のチラシなどを作成する際は、分かりやすいものを作成していく。

委員) 文字を少なくしたチラシも作成していくべきである。

4. 協議 筑後川遺産の新規登録について

①「城島酒蔵ものがたり」

<事務局からの報告>

[資料の訂正] 筑後川遺産の構成遺産21の「三潨醸造試験所跡」を「三潨酒造研究所
跡」に訂正。

委員) 昭和28年発行の『新考三潨郡誌』に酒蔵のラベルが掲載されており、当時を知る
貴重な資料になるため、文化財部局としてさらに深く調べておくこと。また、『三潨・
柳河めぐり』、『福岡縣三潨郡誌』なども参考にすべき。

委員) 城島の酒蔵は酒蔵開きなどですでに有名だが、申請団体はどのような課題を抱えてい
るのか。

事務局) 酒蔵開きのイベントはすでに知れ渡っているが、もっと城島の酒蔵について歴史的
な深みを持たせたいといった課題がある。

②「田主丸・祭りの賑わう里～地域をつなぐSDGs」

<事務局からの報告>

委員) 現在の祭りは、田主丸町誌の時代からかなり変わってきた。その変遷についても調
査して欲しい。また、祭りは見には来るが参加が少ない。集落では氏子制度があり、
新しく住民になった人などからの担い手が育ちにくく、地域のコミュニティを維持し
ていくのが難しい。私の地元の草野町では、小学校3、4年生が運動会のお遊戯で獅
子舞を披露するが、田主丸町でも小学校単位で取り組めないか。

事務局) 田主丸小学校では虫追い祭りに生徒が取り組んでいる。また、今回の申請は、地
域おこし協力隊として関東から転入してきた隊員が、田主丸の祭りの豊かさを都市に

ない魅力として、調査や記録を始めたのがきっかけである。外からの目で価値を見つけ出し、それに共鳴する人たちが現れ出した。

委員) ガイド育成や外部サポーターにはすでに取り組んでいるのか。

事務局) まだ計画段階で実際に取り組んだという事例はないが、申請者は、農泊で受け入れた宿泊客にガイドと一緒に堂籠りなどの祭りを見て回るができないかといったことを考えている。

委員) 地域の基本的な課題は、市内どこも一緒に少子高齢化、後継者不足である。自治会に加入しない世帯が増えており、子ども会も参加はするが、親が子ども会の世話役に就くなら子ども会を止めるといった世帯も多い。学校では、うまく子どもを動かしていくことが大事で、子どもが参加すると親も一緒になって参加する。

事務局) 地域の伝統行事を核として、地域のコミュニティの繋がりをこれからも維持していく形を作れないかというのがテーマである。構成遺産の82件には、それぞれの集落でそれぞれの状況があり、全体的に何かできるかというとな難しいが、まずは、現状を把握し、地元の人たちに理解してもらうことが大事だと考える。

委員) 少子高齢化で止めてしまった行事も多く、今やっている行事でもいつまで続くか分からない状況である。そのような中で筑後川遺産に登録するなら、ある時点ではどれくらいの行事があって現在はどうなっているかと正確に把握する必要がある。江戸時代は、村の神社で行事があり、村を構成する集落の小さな神社でも行事があった。村単位では行事が残っていても、人口の少ない集落では、行事が消え去る可能性が十分にある。昔はどのような行事があって今はどうなったかなど、全体を調査し情報を正確にまとめていく必要がある。

委員) 今回は筑後川遺産登録としての協議になるが、祭りには地域の課題など今後しっかりと調査していく必要がある。

事務局) 2件の筑後川遺産登録の提案があったが委員から異議がなければ、登録とさせてもらうがよいか。

異議なし

4. その他

事務局) 令和5年7月が委員の改選の時期になるので、再任の場合、就任依頼の案内をさせていただきます。

5. 閉会